

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和2年2月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホーム あおいの家
所在地	鹿児島県薩摩川内市隈之城町1248番地1 (電話) 0996-20-3221
自己評価作成日	令和元年12月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・古い歴史のある静かな住宅の一角の良い環境で近くには温泉施設や公園などあり、利用者様と共に散歩したり、家族の面会時は温泉施設に隣接している食堂で利用者様とその家族でのんびりした時間を過ごされております。
- ・毎年、近隣の保育園と親交を深め園児の歌や踊りなど楽しまれ、お互いプレゼントの交換等を行い利用者の方々の笑顔も見られ楽しい雰囲気の中で過ごされております。
- ・地域の方々や農家を営む家族等の協力で旬の野菜、果物等を頂き美味しく食事をされております。
- ・利用者様が日々、楽しく有意義に生活できるように努めております。
- ・利用者様とスタッフで四季折々の飾り付けなど一緒に制作して施設空間に貼り付けるなど一緒に楽しい時間を過ごしております。
- ・スタッフは朝のミーティングや職員会議等で個々の状況にあうケアに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは薩摩川内市隈之城地区の住宅地の一角に位置し、近くには温泉施設や公園があり、緑豊かな自然に囲まれた静かな環境である。開設時には1ユニットであったが、平成29年4月から2ユニットとなった。利用者がゆったりとした環境の中で、笑顔で安心して健康で幸せに暮らせるように、利用者や家族の思いを大切にしながら温かい気持ちで支援していきたいという施設の理念の基に、職員や家族と共にゆったりとした時間の中で利用者の日常生活が展開されている。

利用者の自由な暮らしを支援するために、身体拘束廃止に関する指針に基づき、研修会や勉強会を通して全職員が身体拘束をしないケアへの理解・認識を深め、認知症ケアや接遇等の研修により職員一人一人のスキルアップを図り、安心・安全なサービスの提供を目指している。

管理者は働きやすい環境を作るために、日頃から職員とのかかわりを通して職員の意見・要望を聞き、意思疎通を図りながら迅速な対応に心がけ、勤務交代や意見交換が円滑に行われるように配慮し、介護福祉士等の資格取得に対する支援にも取り組んでいる。

職員間のチームワーク・コミュニケーションは良好に保たれており、職員は施設の理念に基づいて、利用者・家族の意向や希望に沿って利用者ができることを維持する支援に積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の方が地域社会の一員としての自覚を持てる、ゆったりとした環境の中で笑顔で安心した生活が送れるように職員一同が理念を共有し実践に努めている	理念はホールや事務室に掲示しており、職員は日々意識しながら実践に努めている。また、理念に近づけるよう意識した施設目標も毎年度設定しており、全職員が理念を共有し、ケアに反映できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに公園や温泉施設があり、元気な利用者は職員と一緒に散歩時等に地域の方々との会話などを楽しまれているが、車イスの利用者も多くサロン等の参加は難しい部分もある。	自治会に加入している。ここ数年は保育園・学校との交流や他グループホームとの親睦は実現できていないが、近隣の方々や家族から野菜の差し入れを貰ったり、近くの公園や温泉施設への散歩時に近隣に出向いて会話する等、社会の一員として触れ合い、地域住民との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症についての勉強会や研修を受けている。 グループホーム入所者家族には認知症について話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会は行われており、ホームの行事計画やサービスの情報提供を行い、資質の向上を図っている。 年に数回資料に基づき認知症についての理解や意見交換を行っている。	市職員、民生委員、自治会長、家族代表等が参加して2か月に1回開催され、サービスの現状報告の他に、入退去状況、利用者のモニタリング予定、職員研修の伝達、認知症ケアについての勉強会等を行い、運営推進会議の機会を活用して業務を見直し、改善・向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会も含め、各申請時や電話等にて、情報や相談及び指導を受けている。	管理者が市役所へ行って相談・報告等を行うことが多いが、電話で回答を得たり、運営推進会議・施設改修の手続き・生活保護受給者等の個別事例への対応等を通して、市の介護保険課とは日頃から密に連携を取るよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	初めての施設入所持等は、施設の利用もなく帰宅願望等があるが、家族や親戚等の協力を得て落ち着いて貰うなどして、施錠など身体拘束をしない取り組みを実施している。	2018年4月に「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催している。内部・外部研修や職員会議での勉強会を実施したり、全職員が身体拘束をしないケアへの理解・認識を深め、玄関や居室の施錠は行わず、言葉による拘束にも配慮しながら、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修等において勉強会を行い、身体的・精神的・言動的虐待が行われないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については朝の会議等で話し合いをするが、成年後見制度については特に勉強会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居にあたり重要事項説明書や利用契約書に基づき十分な説明と理解をして頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者やホームのサービス向上を図るため意見や助言、提案を傾聴し更なるサービスの向上に努めている</p>	<p>利用者や家族の意見・要望は日常の関わりや面会等で聞き取り、ミーティングや職員会議等で検討したり、アセスメントやモニタリング時に利用者及び家族の状況を踏まえて課題分析へと繋げ、介護計画にも反映させている。管理者は利用料請求に併せて利用者個別の状況を手紙に書いて家族へ郵送し、家族に対する連絡調整を密に行う等の配慮に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関する検討会は開いていないが、月1回の職員会議を開催しているが、運営に関する意見は少ないが、代表者が年に数回会議に出席され、運営方針を話されている。</p>	<p>管理者は日頃から職員会議・ミーティング・申し送り・お茶の時間等を通して職員の意見を聞き、ユニット主任や関係者間で共有して対応している。何でも言い合える職場環境を作ることで働きやすい職場となるように、相談には必ず対応し、スムーズな勤務交代や意見交換ができるように配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は頻繁に現場に来て職場で色々な出来事を報告し、実情を理解され、給与水準等の改善をされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の知識向上のため、職場での勉強会及び各研修においても積極的に受講させ、資質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者同士の情報交換の交流はあるが、ネットワーク作りや相互訪問等の交流は出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談及び及び入居前の契約時にホームにて本人と家族に面会し、環境の確認など順応性を見極めを本人にしてもらい、本人が安心して受け入れて貰えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なことを傾聴し信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各ユニットの計画作成担当者と入居にあたってのアセスメントを行い、現状把握をし、他の施設への検討したりして対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症を患っている高齢者が共同生活を円滑に行えるように職員は信頼関係を築こうと日々努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方在住でなかなか面会できないご家族には電話連絡や文書にて随時現状報告をおこなっている。また、同市内に居住される家族には定期的に訪問してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境の変化に伴う不安感や心身虚弱化を防止するためにも、本人の意向により以前住んでいた場所等、ドライブをしている。	これまでの馴染みの場所へ行ったり墓参り等を希望する利用者は少なくなっているが、家族・友人等利用者を取り巻く馴染みの人々や地域との関係を把握してその繋がりを維持できるように、電話・手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問理美容、ドライブ、温泉施設への家族との買い物、近くの公園への散歩等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場になっている食堂兼ホールでの配席は、人間関係の構築の場として特に重要視し、配慮した工夫を必要ごとに行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退所後は、入院先に出かけ療養の様子を伺っている。又退院後の施設相談を家族や病院ワーカーから受けることもあり、出来る限りの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成及び見直し時期には必ず、本人の意向を傾聴し、思いの訴えない方には家族の意向等を勘案し、職員会議等で本人の立場にたった意見を出し合い検討している。	日々の関わりを通して、利用者の言動や表情、家族からの情報やモニタリング等も参考にして思いや希望を把握し、表現できない利用者場合は家族の意向を勘案しながらも本人の思いをくみ取り、本人の意向を尊重するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の1人ひとりの人生の背景を考慮し、その人それぞれに添うサービスが実践できるように家族や関係者から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来ること、出来ないことを把握し、その有するの能力が発揮できるように職員や各ユニットの計画作成担当者により支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状把握を行い、家族との連携を図りながら、本人の意向を重点におき、各ユニット毎に朝のミーティングや職員会議等においてモニタリングを行い、職員一同の意見を交えながら入居者の介護計画を作成している。	利用者や家族の思いや意見は、日々の関わりや面談だけでなく、アセスメントによる課題分析やモニタリング等により本人の意向を尊重して現状把握に努め、協議・検討を行い、介護計画に反映させている。特に家族の事情にも十分配慮しながら、利用者がより良く暮らしていくために十分に話し合い、支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとり日々の体調面、精神面、ケアの実践等を個別に記録し、その内容について各ユニット毎の職員間で共有しながらケアに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身および身体の変化に合わせて柔軟に対応するように各ユニットの職員一同が心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域に馴染んだ環境を活用し安心して過ごせるように努めている。頻繁ではないが温泉施設等に地域の物産など見学に同行し、買い物など一緒に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は、十分に行っており、緊急性および急変事の対応や連絡は的確に行い、受診時は必ず、職員が行ない施設生活の状態を主治医に報告し、指示を得ている。	利用者のかかりつけ医は入居後は協力医療機関となり、管理者を中心に月1回の受診に付き添い、継続的な医療が受けられるように支援に努めている。家族の協力を得て他科受診や歯科往診にも対応し、必要な連絡事項は職員が目につく場所に貼る・置くなどして、利用者の状況に合わせた柔軟な対応に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	朝のバイタル時や、精神状態、入浴時などの観察を含め特別な変化に気をつけり、異常の兆候があれば、管理者に報告、適切な受診を受けられるように支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院による医療機関との連携は入院後退院時の情報を面会時に把握し、医療関係者との情報交換を行っている。また退院を想定した援助にも努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	ホームの方針は、医療機関において頼りしターミナルケアについては取り組んでいないが、家族の要望があれば、事業所でできる事を十分に説明し理解を取り、主治医との話し合いにより、ホームで介護可能な場合、協力医との連携を取りチームで支援している	利用者が重度化して医療行為が必要になった場合には、殆どが医療機関に入院となるが、家族の要望がありホームでの対応が可能な状態であれば、協力医療機関と十分な連携を図りながら看取りを実施できる体制にある。終末期ケアについての同意書・看取りについての事前確認書の様式は作成しており、現時点では家族の同意を得るまでは至っていないが、本人と家族の思いを尊重し、本人の状態に合わせた対応ができるように検討して支援するように努めている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	研修資料により、グループホーム内研修等を活用し、利用者に対する急変事時対応等の研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の防災訓練を実施している。災害発生時においては自治会や周辺の方々に協力依頼をお願いしている。</p>	<p>消防署の立ち合いを含めて年2回、2ユニット合同で夜間想定での災害訓練を実施している。避難場所は近くの温泉施設とし、近隣の方々や民生委員等にも呼び掛けており、訓練への参加は難しいが緊急時の協力体制は図られている。ユニット毎に備蓄や防災用品の点検・整備も行われ、消防署への自動通報装置や連絡網により関係機関と連携を取りながら、実践的な取り組みに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修や、朝の朝礼等で話し合いなど行いプライバシーの確保や利用者への接遇向上に努めている。	利用者の尊厳と権利を守るために、内部・外部研修やミーティング等で職員のスキルアップに努め、共通認識の下で安心・安全なサービス提供に取り組んでいる。利用者や家族に対しては個人情報保護指針に基づいて説明し、「個人情報提供同意書」で同意を得ており、まずは利用者の安全を確保しつつ、プライバシー保護や自尊心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の思いや希望を確認しながら、声かけえを行い自己決定してもらっているが自己決定の不可能な利用者対しては職員間で情報を共有して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に業務に合わせるのではなく、基本的に利用者の生活リズムに職員が合わせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の個性や尊厳を重視し、在宅での服装に近い物を準備して貰っている。また、それに向けての支援も行っている。家族にも援助をお願いし対応出来ている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握しており、季節にあった家庭的な料理を食べてもらっている。食事の後片付けや台拭きなど、手伝ってもらっている。	入居時に利用者の嗜好・アレルギー等を把握し、食事形態や食事制限の内容、本人の食事動作能力に応じた介助内容等について検討している。職員と一緒に買い物に行く利用者はいなくなったが、可能な範囲で下ごしらえ、テーブル拭き、下膳等の手伝いを行っている。行事食、家族との夕食、手作り弁当を味わうなど、職員も利用者と同じ食事を団欒しながら楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、1人ひとりの体調面を把握している。午前、午後にお茶の時間を設けており、水分等を摂ってもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い自分でできる方は自分で行ってもらい、磨き残しのないように一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方以外の入居者の方は一部介助を行っている。排泄チェック記録により排泄パターンをハークし、日中はトイレでの排泄援助を行っている。	利用者の生活習慣や排泄パターンは日々のケアを通して排泄チェック表と介護日誌で把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるように排泄の自立へ向けた支援に取り組んでいる。トイレ以外の場所に排泄してしまう利用者の場合でも、職員全員で見守りながら本人の自尊心やプライバシーを傷つけないような支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方はかかりつけ医と相談の上服薬管理を行い、排便チェック、主治医の指示による排便コントロールや水分補給など適度な運動への働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	各ユニットで入浴は午前中に行っているが、それ以外汚染された方は曜日を問わず的確な対応を行っている。	入浴は週2～3回、1対1の個浴で支援を行っているが、利用者の状況に合わせて清拭やシャワー浴等も実施している。入浴剤は使用せず、入浴後は水分補給を行い、保湿剤を使用する等の支援に努めている。入浴をためらう利用者に対しては、まず本人の意向を尊重して入浴日を変更したり、声掛けのタイミングを工夫する等、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせた支援で休息や睡眠をしてもらっている。体操やレクリエーションなど以外は殆ど自由な時間として入居者の皆様には過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬の説明書を添付し、随時確認出来るようにしている。臨時処方管理者が連絡帳に記載し報告している。主治医の指示に従い臨時薬の副作用等に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿った役割として洗濯たたみや掃除、また草取り等を行って頂いている。気分転換に散歩など取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別で散歩を希望されるときには随時対応できるように努めている。本人希望の外出は家族の協力をもらい外出するようにしている。	利用者が日常的に外出することは難しくなりつつある現状ではあるが、近くの公園への散歩や温泉施設への買い物、家族との病院受診後の外食、彼岸花や桜の花見、ドライブ等、個別支援への工夫に努め、利用者の意欲や自立を保つための外出支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	園外活動時等は金銭管理のできる方についてはお金の所持をして頂き、買い物がある場合職員の付き添いで支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	家族や知人との連絡を希望されるときは常に援助を行っている。認知面で手紙のやり取りは難しいが電話での援助を行っている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	生活の場としての環境は利用者が落ち着かれるような飾り付けや雰囲気作りを行っている。	木造平屋造りで木材をふんだんに使った温かみのある建物で、広々とした玄関には植物の鉢が置かれ、スロープが取り付けられ、壁紙や職員・利用者の似顔絵が飾られている。ホールを取り囲むように居室が配置され、ホールは天井が高く採光も良く、嚙下体操やあいうえお表が図表化されて掲示され、空気清浄機や空調設備により快適な環境で居心地の良い空間となっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ホールにソファを設置、思い思いの場所で過ごせる。また入居者同士でのお喋りや、ゆっくりテレビを見たり一人で自由に過ごせる環境作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は個人の使い慣れた家具等を設置し、安心して過ごせるように配慮している。</p>	<p>居室にはエアコンが完備され、ベッドやタンスは以前の利用者が残した物であったり持ち込むことも可能となっている。部屋の入口には利用者の名前を大きく表示して暖簾をかけ、腰高窓からは外の様子がうかがえ、写真・花・テレビ・ぬいぐるみ等の馴染みの物を自由に持ち込んで好みの配置を楽しんでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に自力移動が出来るように手すりを設置し、自分の居室がわかる名前と写真を表札代わりにして自分の部屋を確認し、入れるように自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない